

関係各位



5/13 相馬市の避難所の昼食

福島県いわき市、相馬市、二本松市で透析患者を支援
 患者を支える家族の疲労・心労もピークに
 慢性腎炎で高カリウム値の避難者の支援要請を病院から受ける

○ 30km 圏内から避難した透析患者はどこに？ ○



12名の透析患者と付き添いの家族が生活する避難所。自炊をしているがサイフも持たずに避難したので食材も買えず。先の見えない生活に疲れが…。

いわき市、相馬市の透析病院で津波により被災した透析患者を調べました。市内13ヶ所の透析病院のうち少人数の施設を除き9ヶ所でヒヤリング。津波の死亡は1名、避難所で生活は1名。300名以上が犠牲になったいわき市ですが、全ての透析病院が海岸から離れた場所で、地震当日は病院に多くの患者がいたことが幸いしました。

原発から30km圏の透析患者は二本松市、会津若松市など内陸部へ避難していました。着の身着のままヘリコプターで避難して来たので何も持たない人ばかり。二本松市では透析病院の近くの2ヶ所に透析患者と付き添いの家族が暮らす避難所が設置されていました。

○ 前日に訪問したいわき市の病院から慢性腎炎の避難者へのSOSを受ける ○

透析患者の支援と共に慢性腎炎の患者の制限食の支援が重要です。避難生活で食事制限ができないことで病気が進行して透析に至らないためです。しかし、個人情報保護の壁で慢性腎炎の患者の情報は一切なく支援ができずにいました。今回、初めて面談した病院の看護師から食事制限の出来ない慢性腎炎患者の支援要請の連絡がありました。既に物資を全て配布していたので、翌日新潟から宅配便で病院宛に送りました。

避難生活で食事制限できずに重症化するの「2次災害」です。2日間で10ヶ所の病院を回り看護師の方に説明をして理解が得られました。情報保護の壁の向こうで苦しむ慢性腎炎患者支援の可能性がおぼろげながら見えたように感じました。

支援物資協力：石井食品㈱、ベータ食品㈱



いわき市の透析病院で避難所から通院する患者を確認し避難所へ。しかし、避難所では把握していない。個人情報で患者の氏名聞かず避難所だけを教えた。患者を発見できず。避難所で隠れるように生活しているのか？



二本松市の透析患者と介護の家族が集められた避難所。にも関わらず**大量のパナナ**が届く。透析患者にご法度のパナナとは…。南相馬市からヘリコプターで避難してきた南相馬地区患者会長の樋口峰雄さんが思わず苦笑いをする。



相馬市最大の避難所「はまなす館」は約340名が生活。津波の瓦礫から発見された思い出の写真が並べられている。ボランティアが写真に付いた泥を一枚一枚丁寧に落としていた。写真の持ち主に戻ることを祈るばかり。



飯館村の農家の風景。計画的避難区域に指定されて今年の作付けは出来ない。毎年、今頃は田植えを待つばかりの苗が整列して「所狭し」と並ぶはずの育苗施設。ビニールも貼られず雑草が生えている。人影も無く寂寥感が漂う…。

【 問合せ先：(有)エコ・ライス新潟 豊永有(トヨナガユキ) 】
 〒954-0181 新潟県長岡市脇川新田町字前島 970-100
 TEL 0258-66-0070 FAX 0258-66-0047
 e-mail eco-net@nekonet.ne.jp